

令和元年度 第3回松戸市立博物館協議会 会議録

日 時	令和2年3月7日（土） 14時00分～16時30分
場 所	松戸市立博物館 会議室
出席者	（委員） 委員 大島 賢一 委員 大西 一樹 委員 山口 恵理子 委員 岡田 啓峙 委員 谷鹿 栄一 委員 濱島 正士 委員 佐藤 孝之 委員 小島 孝夫 委員 日高 慎 （事務局） 教育長 伊藤 純一 生涯学習部長 片田 雅文 博物館館長 望月 幹夫 博物館職員 7名
議 題	（1） 松戸市立博物館リニューアル基本構想・基本計画について （2） 館蔵資料展「小金城と根本内城」内覧と意見交換 （3） 今後のスケジュールについて
公開 非公開	公開（傍聴者0人）
配布資料	会議次第 【資料1・2・3】 松戸市立博物館リニューアル基本構想・基本計画 【資料4】 館蔵資料展「小金城と根本内城」チラシ 【資料5】 基本構想・計画スケジュール

【 議事 】

(1) 松戸市立博物館リニューアル基本構想・基本計画について

事務局から資料1～3をもとに松戸市立博物館リニューアル基本構想・基本計画について説明した。

委員：平成31年3月の答申では、「(仮称) こども歴史博物館」という名称

を使用していたが、「こども歴史体験ゾーン」という名前に変えるのか。

事務局：博物館全体ではなく、空間の一部をこども体験ゾーンとしていたため、「ゾーン」という名称がふさわしいと考え、案として提示している。

委員：松戸市立博物館は、千葉県を代表する博物館と言えるため、この博物館のリニューアルが、周辺の博物館に与える影響はとても大きい。

また、今、博物館が観光拠点になる方向性があるが、多くの人に博物館に来ていただくには、万全の収蔵環境、保存環境を整えた上で貴重な文化財を展示することである。文化財の保存管理・収蔵環境含めて考えていかなければならない。

収蔵展示というような形で収蔵環境をすべて見せてしまうという戦略も効果的である。

委員：事業目標 4 に「施設の充実」とあるが、具体的にはどのような内容を考えているか。小中学校の空き教室などの教育施設を活用するという事などは考えているのか。

事務局：現在は、収蔵庫が溢れているほどではないが、年々、寄贈が増えている中で、戸定歴史館や美術品も含め、収蔵環境の話は大きな課題であると認識している。博物館だけでなく教育委員会全体として収蔵計画を考えていかなければならない。

委員：収蔵スペースを単に確保すればよい。という話ではなく、やはり災害等も考えていかなければならない、施設の老朽化と長寿命化対策は大変重要である。

委員：博物館来館者のリピーターをどうやって獲得していくかを考えたときに、博物館の内容はいつ行っても同じである。仮に、展示物の土器を A から B に変えたところで、来館者は興味を示さない。

いかに展示が変化していることを知ってもらうかの情報発信や広報戦略がとても重要だ。

可変的展示空間とは具体的にどの程度を目指しているか。

事務局：まだ検討中であるが、展示資料の置き方や解説パネルの配置の仕方などを変えるやり方、展示空間の半分を変えるなども考えられる。

委員：常設展示は、多くの変化、時代を変えるくらい大胆な発想を計画してもらいたい。

委員：小中学校社会科担当の主任以外は博物館の活用方法がわからないので研修やモデル授業などを示してもらえれば、もっと学校側から活用していくことができる。

中・高・大学生は忙しく時間がない。どうやって目を向けさせれば良いか考えていく必要があると思う。

また、子育て世代にはどのようなアプローチを考えているか。

事務局：博物館アワードなど認知いただき、対象範囲（ターゲット）を拡大していきたい。

子育て世代は、こども歴史体験ゾーンの整備により家族で楽しめる内容にしていく。

また、学校とは、市内各地域の歴史や文化などの特色を中心に学び自分の学校区の歴史を理解ができるような連携ができれば良いと考える。

また大学では、市内千葉大学、聖徳大学と連携を進めている。

委員：博物館は、夏休みの自由研究のテーマを探ること、研究内容を深めることができる場である。

その方法も博物館側からホームページなどで提供されると活用しやすい。

4学年の社会科の単元で「古くから残るもの」を調べる学習があるが、難しい用語の調べ方や古いものの情報を知ることができるような展示構成になっていると良い。

委員：博物館アワードの成果を検証して、今後、発展して行ってほしい。

こういった活動からも将来を担う研究員や学芸員などが生まれる。そのため、研究指導なども学芸員にはやってほしい。また委員の皆さんにも、お力をお貸しいただきたい。

委員：講座なども、同じテーマばかりでなく多様なテーマで参加者のターゲット層を広げられると良い。

委員：現在の日本社会では、生まれ育った場所でずっと暮らすことは少ない。「地域博物館」の役割、在り方をもう一度考え直すことが必要。

また、通史を意識した動線ではなく、時代などをバラバラに配置して、自分で発見するような、工夫した動線にしてもよい。山梨県立博物館や三重県立博物館はそのような作りになっていて面白い。

委員：博物館で見たこと、知ったことがきっかけで研究者になったという

方が来館されて、とても嬉しく思った。人の将来に繋げられるような役割ができれば良い。

また、大学と連携し、単位認定講座を実施している。松戸市立博物館でも大学と連携し、単位を出すのも良いのではないか。大学生のボランティア活動の受け入れもできる。

戸定歴史館との連携はどのようなことを考えているのか。

事務局：チラシや販売物の交換配置、観覧券での連携などを考えている。

委員：バスツアーなどを実施しても良いのではないか。

委員：友の会の活動が、より博物館で活躍できるような場であると良い。

委員：SNS や HP で歴史を切り取ってみるなど博物館が伝えたい情報、内容の見せ方が重要である。子どもや若い世代には、博物館へのきっかけづくりを考えていくべき。子どもたちは簡単にスマホやタブレットで見ることができるので、動画や映像は適している。また、この資料や内容については、この本や資料を読むと更に深く知れることができるなどの指南など、興味をもったものを深掘りできるような仕組みがあると良い。

委員：学校区の歴史をホームページで発信するなど、地域性と学校の連携が見えるようになれば、より学校と博物館で活用し合えるのではないか。

(2) 館蔵資料展「小金城と根木内城」内覧と意見交換

委員：わかりやすい展示内容であった。絵巻物や理解しやすいマンガなどの工夫がとてもよかった。古文書はやはり難しいと思った。解説パネルが少し小さいと感じた。

委員：航空写真は面白かった。航空写真について解説があるとより良いと思った。

委員：大谷口歴史公園の資料がないのがもったいないと思った。

委員：小金城と根木内城の位置関係がよく分かった。

(3) その他

次回協議会は令和2年6月13日（土）、14日（日）で調整する。